

バッセルトンは今回で3回目となる。これまではパース直行でたいした面倒も無く移動出来たが、今年は直行便が無くなりシンガポール経由となった。しかもシンガポールでの乗り継ぎ待ち時間が何と 7 時間。オプションツアーで市内観光をしたが何故か急ぎ足の旅、空港に戻り未だ3時間もある、不評だった。

早朝パース空港到着、きらきらと輝く太陽の歓迎を受けた。昨夜のシンガポールはじとじとと蒸し暑かったのに比べ、何と爽やかなんだろう。バッセルトンまではバスで約4時間、平原の中を一直線に進む。この光景は昨年と全く変わらない。昼過ぎバッセルトンの宿泊地着、今年はどうやら昨年に比べ相当暑い様だ。早速持参した寒暖計を日陰にかけてみた。32℃湿度16%。直射日光を受けるとジリジリと暑いが汗は出ない。日陰では涼しく全く暑さを感じない。一昨年はこの暑さを感じない乾きに気が付かずバイクで水分不足に陥り、激しい痙攣に見舞われ、結局リタイアしたのだった。昨年は寒さ対策だった。今年はどうやら暑さ対策が必要の様だ。

## <疲労困憊だったスイム>

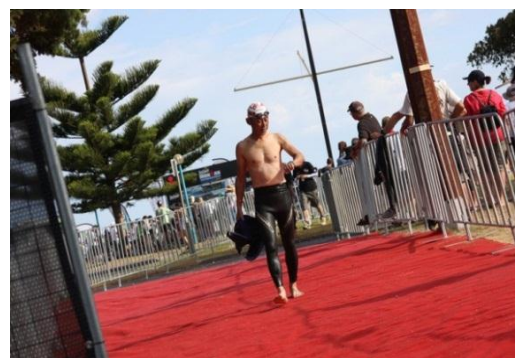
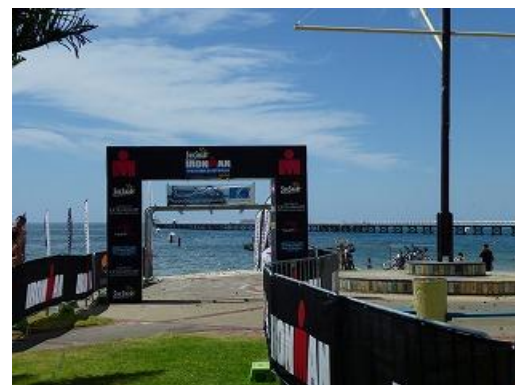
3時起床、ホテルのパン食を避け昨日購入した巻き寿司を食べ3時 50 分最終確認の為補給食、補給水を持ってバイクラックに向った。まだ薄暗いが気温は高く、なんと寒暖計は 25℃を示していた。このホテルはスタート地点から 300m程度しか離れていない為、いったんホテルに戻りウエットスーツを付けて 5 時 15 分スイムスタート地点に向かった。天気は快晴、暑い一日になりそうだ。海面は海に向かって右から左に波立ち、流れが若干気になるコンディション、まあ「良」の範囲であろう。5 時 30 分プロがスタート、見る見る集団の影は小さくなり、いよいよ我々のスタート時間がやってきた。私は昨年同様ジェットイ(棧橋)に近い地点からのスタートとした。5 時 45 分スタートの合図とともに今日の一日が始まった。最後尾に近い位置から息の上がないゆっくりとしたピッチで始動、水中からは周りの様子は見てとれ、全くバトルに巻き込まれる事もなく淡々と進んだ。海流に押されぎみで順調に進む。30 分は過ぎたであろう頃から、うねりが大きくなり泳ぎのリズムは崩されながらもジェットイ先端の建物が見え折り返し地点まで来た安堵感があった。黄色い大きなポールを 2 つ周り後半戦に入った。この頃から周りにはもう殆んど人影はなく一人旅が始まっていたが、いつもの事と焦る事もなくただ淡々と我が道を進んでいた。そんな平和な時間が 20 分ぐらいは続いたであろうか、右手から(陸に向かって)ライフセーバーがやってきて進路を左手に変える様促された。しばし周りの状況を把握するとジェットイからかなり(100m以上)離れている事



に気づいた。海流に流されている事を知った始まりだった。ジェットイに近づく様進路を変えた(つもりだった)。しかしまたしてもライフセーバが現れ、今度はカヌー先端で強制的に進路を変えられそのまま私から離れようとしな。その頃から海底の景色で進まない自分を感じていた。確かにジェットイから更に遠ざかっている様だ。流されている。海流に打ち勝たねばならない。必死な気持ちになってきた。海流に負け流されたらリタイアになってしまうであろう。幸いうねりは無く泳ぎやすい、焦る気持ちを抑えられずパニックに陥る事だけは避けなければなるまい。ライフセーバが進路を誘導、自分を監視してくれている。だから自分は何も考えずに進む事に専念すればいい。兎に角必死で泳いでいた様な気がする。そんな状態が 30 分ぐらい続いたのだろうか、やっと陸地が近づいている事が実感できた。海流も弱まっている様だ。これでリタイアが回避できると確信が持てた。それでもライフセーバは自分から離れようとしな。今思うとそれ程疲れ切った泳ぎで未だ心配だったのかもしれない。それでも海岸から 100mぐらいの所に達した時ライフセーバはクルリと方向を変え去って行った。とっさに「サンキュー」と大きな声を振り絞って感謝の気持ちを伝えた。波打ち際に到達し砂浜にやっとの思いで立ち上がったが、よろよろと転げてしまった。重力を目一杯感じ、疲労困憊に気力も薄れ、この試合はもうここで終わっても良いかなと思ったりした。普通なら走っていただろうトランジットまでの約 200mは、ただよれよれと歩いた。しかし見渡せばほとんどの人は歩いている、自分だけがまいてる訳じゃないんだと思った。トランジションのテントでは椅子に座る事を促されスタッフ 2 人でウエットスーツを脱がしてくれる(昨年もそうだった)本当にありがたい。そして両手でこれでもかと思う程、日焼け止めをべたべた塗ってくれる。着替えを済ませアミノバイタル、アミノエナジーを絞り込み、ゆっくりとバイクラックに向かった。ここでこれまでに見た事が無い光景を見た。バイクが結構あるではないか(200 台程度あった事になる)、特に自分のクラス付近は 50%程度残っている感じがした。これまではバイクを探す必要など全くなかった。残っている1台が自分のバイクであるからだ。この光景を見て今日のスイムはみんな辛いものがあったらう事を感じないわけにはいかなかった。その中で自分は相対的に頑張った事になる。1時間 48 分(1195 位/約 1400 人)

### <リハビリの走りとなったバイクパート>

疲労困憊はそう簡単には回復しそうもないと思えた。バイクのスタート地点まで 100mはあったと思うがただゆっくり歩くしかなかった。しかし考えてみればもっとまいてる人達もいるはずだ。そう思う事で、今ある力で頑張る焦らず立て直す気持ちになろうと思った。バイクコースに出て間もなくプロのトップグループに追い越された。昨年より約 10kmも手前



での周回遅れである。バイクコースは折り返しが3か所ある一周60kmの3周回で昨年と全く変わっていない。完全にフラットでスピードコースであるが半分は海沿いであり必ず風の洗礼を受ける事、そして約1/4はうっそうと茂った樹林の中を一直線に伸びる景色は最高だが、ただ路面が荒くスピードが出ない、そして我々には尻が直撃され堪える。風向きは昨年と逆で行きが向かい風だった。若干の向かい風とは言え全く漕ぐ気力が湧かずサイクリング状態が続いた。第一の折り返しに向かう時、既に折り返してきた小島さんとすれ違った。およそ15分の遅れである。ここまでは昨年と同じようなパターンである。昨年は2周目で追い越し3周目で引き離れたがランに入りあっさり抜き去られたのだった。単調なコースと疲労により睡魔が襲ってくる。時々頭に水をかけたり、水分補給、補給食を取ったり、兎に角今に対し集中する様に心がけた。今回は昨年に続き味噌汁による塩分補給、そして新たにアイソニック飲料のOS-1、赤飯の中に塩じゃけを忍ばせた補給食を試みた。なかなか食べやすく塩分補給と共に、他とも合わせ1200kcalは補給出来たはずだ。水は9本ボトルが取れたので4.5Lの補給。この乾いた快晴の中でも痙攣などに全く怯える事なくこれまででない完璧な対応が出来たと思う。2周回目に入り疲労困憊だったスイムの疲れもだいぶ和らぎ平均スピードも上がっているはずだがいっこうに小島さんとの差がつかまらない、いやむしろ開いている様にさえ感じる。3周目ではやや頑張れたものの昨年より20分も遅い結果でのバイク終了となった。

6時間59分(1152位/約1400人)

#### <歩かなかったランパート>

ランコースも昨年と全く変わらない大半が海岸沿いを走るフラットな4周回コースである。ランパンに着替えを済ませ、アミノバイタル、エナジーなどしっかりエネルギー補給をした。そしてトイレを済ませてからランコースに向かった。脚の痙攣で全く走ることすら出来なかった一昨年、そして走り始めて間もなく脚のすねが痛んで後半は歩くしかなかった昨年、それに比べればどうやら今回の脚は無傷のように思えた。ただスイムでの激しい疲れは多少やわらいだものの、もう既に8時間以上動いており疲労感はそれなりに大きい、いやこれまでに経験した事がない程の疲労感といえるかもしれない。走り始めは何とか6分/km代程度と思えるスピードで滑り出したと思うが次第に何とも言いえない、自分の意志では制御しがたい強烈な疲労感が全身に襲い掛かり、ずるずるとそれに従おうとしている。歩きたい、止まりたい、の格闘が始まっていたが、ただ今回は心に秘める事があった。それはとにかく歩かない事である。これまで全てのロングの大会で走り切った事が無い、つまり必ず多少の差はあるが歩いている。全く歩く事無く走り切る達成感を味わった事が無いのだ。耐え難く



なった時は先ずスピードを落し耐え忍ぶ事しかないと思った。先行している小島さんとはとにかくランに強い人なので既にバイクで先行された時からはや結果は明らかで、この勝負は無かったものにしようと思いに言い聞かせ落胆しない様に務めた。しかし分からないものである。第2の折り返し地点(7km地点)ぐらいただろうか、歩いている小島さんを発見したのだった。如何したんだろう？全く想像してなかった事が起きている。一瞬声をかけようと思ったが失礼に思えた。そしてなるべく離れた位置から全く気が付かない素振りですと追いついた。後日レース展開を聞いて驚いた。不得意なバイクで7時間を切る目標をたて(目標達成)兎に角バイクで頑張ったとの事。だがその結果、疲労がランにきたと言われた。すでにハワイのチャンピオンシップでエイジ優勝し来年のハワイ出場が約束されているとは言え、未だこの挑戦的な課題に挑む気迫に敬服した。20km地点はもう過ぎたであろう後半に入り当然の事とは言え疲れはさらに酷くなり、集中力も薄れボーとして走っていたのだろうか、ちょっとした段差に足を取られ転倒してしまった。幸い砂地だった為少しの擦り傷で事なきを得たが以後慎重に足元に注意する様になった。するとそれまでは何気なしに見ていた至る所に書き綴られた路面の文字が目につきユニークでしばし疲れから逃れさせてくれる。スタート時のスピードはもう既に維持できないばかりか歩かざる事を守るのが精一杯であった。早足で歩く人には追い越される始末だ。4周回目に入り間もなく太陽は沈み海辺は暗闇に包まれた。そしてランナーに配られたペンラインライトの明かりが一行に点々と灯り道するべとなった。やがて市街地に入り人波は次第に多くなりゴールを伝えるアナウンス音も大きく聞こえゴールがまじかである事を肌で感じた。そして昨年とはまた違う達成感をかみしめながらのゴールだった。6時間1分(1062位/約1400人)

### <適当な言い訳が見つからない>

試合が終わってみて、スイムタイムもバイクタイムもそしてランタイムも全て昨年より悪かった。しかし相対的に頑張れたかもしれないスイム、早足で歩く人に追い越される情けないスピードであったが歩かなかったラン、トータル15時間4分と昨年より40分も遅かったがラッキーにもエイジ5位入賞。そして秘かに立てた小島さんに勝つとの目標も達成した。何よりもこの一年間モチベーション維持のため大きな支えとなった。結果に対して満足している訳ではないが、身体と折り合いを付けながら、一年間故障せずに試合に臨めた事を良しとしなければとらないと思った。

